

# 四日市フロント

y-front.jp

▶ トップ ▶ ご挨拶 ▶ 四日市フロントについて ▶ 活動内容 ▶ スタッフ紹介 ▶ LINK ▶ お問い合わせ



## ▶ 多文化共生に向けて 三重の現場 すごいやんかトーク

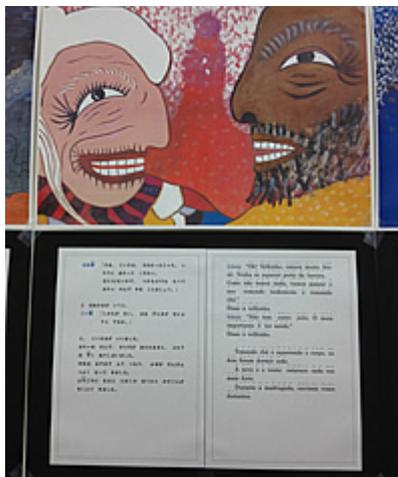
1月20日（日）17:30~18:30、四日市市の県四日市庁舎で「みえの現場・すごいやんかトーク」が開催されました。

### 三重県四日市庁舎

すごいやんかトークとは、現場を重視し、地域の力を伸ばす県政を展開していくため、三重県の鈴木英敬知事が現場に出向き、地域で活動する人々との対話の場を設け、各地域の実情や課題認識を高めるために実施するものです。県が注力するテーマに関連した活動等を実施している団体等から、現状や問題点についてなど意見をインタビューし、情報交換をすることが目的です。

今回、地域住民や外国人住民に対して、通訳、翻訳、医療や介護の増進を図る活動、情報提供、生活教育支援に関する事業を行っている「NPO法人 ハートピア三重」のメンバーを中心とする10名が参加しました。

ハートピア三重は、外国人（特に日系ブラジル人）の方が安定して就労、生活できる高校レベルの日本語習得を目標に、四日市市笹川地区を中心に日本語教育等に取り組んでいます。日本語、特に漢字に親しみをもちてもらおうとともに、昔話を通じて日本の文化、日本人の気質などへの理解を深めることをねらいとして、三重大学と共に笹川地区の小学校低学年以下の児童に対して、かさ地蔵など6つの昔話の紙芝居の読み聞かせに取り組まれています。四日市フロントは、この活動をサポートしてきました。平成24年度の紙芝居は、四日市市とも連携し、モデル的に実施しています。



会の前半では、鈴木知事からの「活動することで“良かった”と感じたことを教えてください」という質問をテーマに、フリートークの場が設けられ、下記のような意見が述べられました。

- 日系外国人の子どもたちが学んでいる学校では、言葉の壁は大きく、日本人だけの学級とは、まったく異なる現実があります。  
そんな中で、“紙芝居を使ってみよう”という意見がでてきた。  
まず幼児向けにやってみたら、スーッと入った。次に低学年を対象にやってみたら、これもウケた。  
馴染まなかった起立・礼・着席が、何回か紙芝居を繰り返すうちに、自らやってくれるようになりました。
- 日本語教育を始めた当初、本当に大変で、子どもたちに受け入れられるまで4ヶ月もかかりました。でも、学習方法が定着してきてからは、“日本語をもっと勉強したい”、“大学に行きたい”という子どもも出てきました。

子どもたちの日本語への学習意欲が高まったことが嬉しいです。

- ブラジルには日系人が多く、日本文化が好きな人も多い。例えば、カラオケを楽しんだり、食事には海苔巻きを食べたりと、日本人のように暮らしてきています。日系人会が力を合わせていることが理由としてあります。  
ここ日本においても、日系人会をつくっていきたいと考えています。
- リーマンショックの際に、外国人住民の就労や負債問題が浮上した。この問題を放っておくわけにはいかない、とハートピア三重の活動が始まりました。
- 競売で家をでていかなければならなかったりと、苦しい境地に立たされている在日外国人は多い。そのような時に相談に乗り、少しでも良い条件で解決できるようサポートをしたり、次の住居を斡旋するなどの活動をしている。うまくいかないこともあるが、困っている時に日本人の誰かが親身になって手伝ってくれたことの方が大切。それがお互いの信頼関係をつくりあげることになります。  
“なぜ、ここまでしてくれるのですか？”“何か困ったことがあれば、私たちにも協力させてください”と、彼ら自身から次のエネルギーをもらうこともあります。

意見を受け、鈴木知事からの回答

- 言葉の壁を越えて、働きかけ続けることで、日本語の学習意欲が高まったのは、とても良い話を聞くことができました。
- 日本での生活を楽しんでいただくために、日系人会をつくっていくのは良いアイデアだと感じました。
- お互いに信頼関係が生まれることで、自分たちが今度は周りの力になっていこうと考えてくれる。外国人住民の皆さんは、三重県を良くしていく力になってほしいと考えています」と述べました。

日本に暮らすブラジル人、中南米のスペイン語圏出身者、フィリピン人を対象に、外国語の新聞・雑誌・書籍等の出版物を発行している会社「アイピース・ワールド」からの取材も→



後半は、「活動において困っていることについて教えてください」というテーマです。

- 紙芝居の作成にあたって費用がかかる。補助金も活用しているが、今後とも資金的なサポートを行政にお願いしたい。
- 老いた後も祖国に帰らず、日本にいたい人もたくさんいます。これから外国人住民においても、介護問題が表面化してくると思います。対処法を考えてほしい。
- 日本人も就職が厳しい時代です。そんな中難しいとは思いますが、日系の方の就労先整備を考えて下さい。
- 知事をお願いします。12～17歳の青少年がスポーツをできる場所や、参加できるイベントの場を創設してください。小さい子向けの公園はあるが、この年代の子が参加できる場所が欠けています。子ども向けの公園などが非行の現場となり、小さい子達が近寄れないという現状です。
- 日系人の中でも、痴呆症の人が増えてきています。日系人が入居できる施設も増やしてほしい。
- 国・県・市のどのレベルでも、資金があればスツといくことは多い。人任せにするのではなく、たくさん税を納めて、県を活性化するよ



う、みんなに頑張ってほしい。

- 市や県で案件がたらいまわしになることがある。担当を越えて対処してくれるような、“何でも課”が必要。

#### 鈴木知事からの回答

- NPO団体の財政強化のため、県の環境生活部で検討中です。
- 日系人の方の介護問題については、あまり議論にあがってきませんでした。これから考えていきたい。
- 就労問題については、もっと丁寧な対応が必要だと感じています。ハローワークだけでダメなら、皆さんのような組織とも連携をして対処していく必要があります。
- 低学年向けの施設はあっても、青少年向けが提供できていない現状を認識することができました。
- 介護施設に関して、施設の対応とともに、キッチンと外国人住民に対応できる人材育成から考える必要があります。
- 自分の担当の仕事だけをするのではなく、担当外でも対応することが必要と考えており、職員への周知にも努めています。



最後に、鈴木知事は「現場だからこそ分かることがあります。今日聞いた話は、持ち帰って、外国人住民の方がより良く三重県に住んでいただけるよう、施策に反映したい」と述べました。

この事業は、平成25年度以降に四日市市の事業として継続実施される予定です。  
四日市フロントとしても、多文化共生への一助となるため、引き続きサポートしていきたいと考えています。

Copyright © 2016 四日市フロント All Rights Reserved.

〒510-0075 四日市市安島1丁目3番18号 (財) 三重北勢地域地場産業振興センター内4階, 059-353-8260